

そで が うら まん さく だい
袖ヶ浦市豆作台遺跡

—— 主要地方道千葉鴨川線埋蔵文化財調査報告書3 ——



平成10年3月

千葉県土木部
財団法人 千葉県文化財センター

序 文

財団法人千葉県文化財センターは、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県文化財センター調査報告第340集として、千葉県の千葉鴨川線の開発事業に伴って実施した袖ヶ浦市豆作台遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

この調査では、縄文時代前期の遺物が出土するなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また文化財の保護普及のための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を初めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成10年3月31日

財団法人 千葉県文化財センター
理事長 中村 好 成

目 次

挿図・図版目次

I はじめに	2	第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡	3
II 遺跡の位置と環境	2	第2図 遺跡周辺地形図	4
1 遺跡の位置と周辺の遺跡	2	第3図 遺構及び旧石器時代確認グリッド配置図	6
2 基本層序	5	第4図 基本層序	6
III 検出した遺構・遺物	5	第5図 001・002遺構	6
1 遺構	5	第6図 出土遺物	8
2 遺物	7	図版1 1.発掘調査前風景 2.001遺構 3.002遺構	
IV まとめ	7	図版2 1.発掘調査完了風景 2.出土遺物	

報告書抄録

凡 例

- 本書は、千葉県による主要地方道千葉鴨川線改良工事に伴う発掘調査報告書である。
- 本書に収録した遺跡は、袖ヶ浦市代宿二枚橋6-10ほかに所在する豆作台遺跡（遺跡コード229-020）である。
- 発掘調査から報告書作成に至る業務は、千葉県土木部の委託を受け、財団法人千葉県文化財センターが実施した。
- 発掘調査及び整理作業は、調査部長 西山太郎、南部調査事務所長 高田 博の指導のもと、下記の職員が実施した。
発掘調査 平成8年6月1日～平成8年6月28日 研究員 土屋治雄
整理作業 平成9年10月1日～平成9年10月31日 副所長 野口行雄
- 本書の執筆・編集は、副所長 野口行雄が行った。
- 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁生涯学習部文化課、市原土木事務所、袖ヶ浦市教育委員会の御指導、御協力を得た。
- 本書で使用した地図は、下記のとおりである。
第1図 国土地理院発行 1/25,000地図「姉崎」（NI-54-19-16-3）
「上総横田」（NI-54-19-16-4）
第2図 袖ヶ浦市役所発行 1/2,500袖ヶ浦市都市計画図（No.15）
- 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。

I はじめに

千葉県は、東関東自動車道千葉富津線（館山道）の建設に伴って、周辺交通網の整備のため主要地方道千葉鴨川線の道路改良事業を計画した。当該事業地内には埋蔵文化財が所在することから、「埋蔵文化財の所在の有無及びその取り扱いについて」の照会をした。その後、千葉県教育委員会と千葉県土木部道路建設課とで遺跡の取扱いについて協議が重ねられた結果、記録保存の措置を講ずることとなり、財団法人千葉県文化財センターが調査を実施することとなった。

本遺跡は、館山道跡ヶ崎インターチェンジから北方約1.5kmに位置し、本道路改良工事に伴い隣接する東京都福祉施設の進入路改良工事部分1,100㎡が遺跡内に当たるため、調査対象地とし発掘調査が実施された。

発掘作業はこの進入路の交通を遮断し、平成8年6月の1か月にわたって実施し、確認調査対象地1,100㎡のうち、中世の道路跡、土坑が検出された周辺の220㎡を本調査し、それと併行し、下層の確認グリッド（2m×2m）を6か所設定し掘り下げたが、旧石器の存在は認められず、現地作業を終了した。

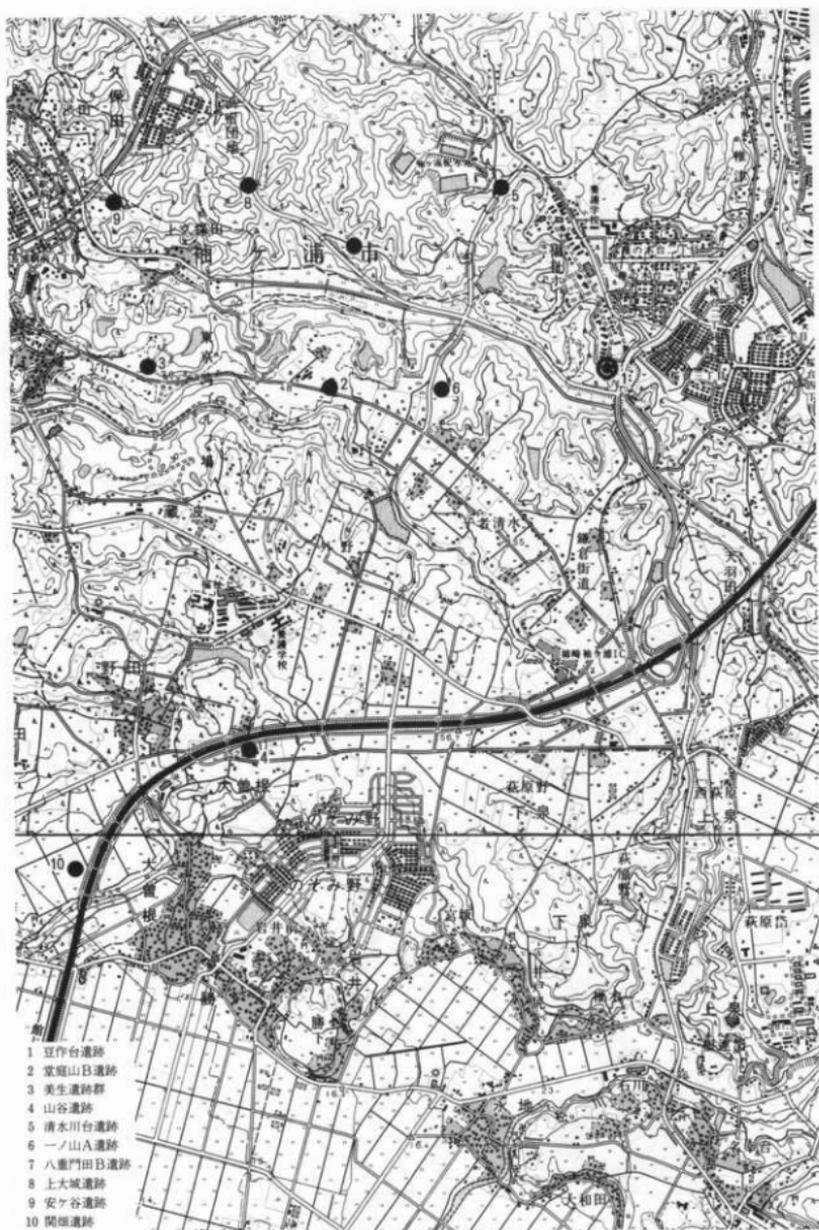
II 遺跡の位置と環境

1 遺跡の位置と周辺の遺跡

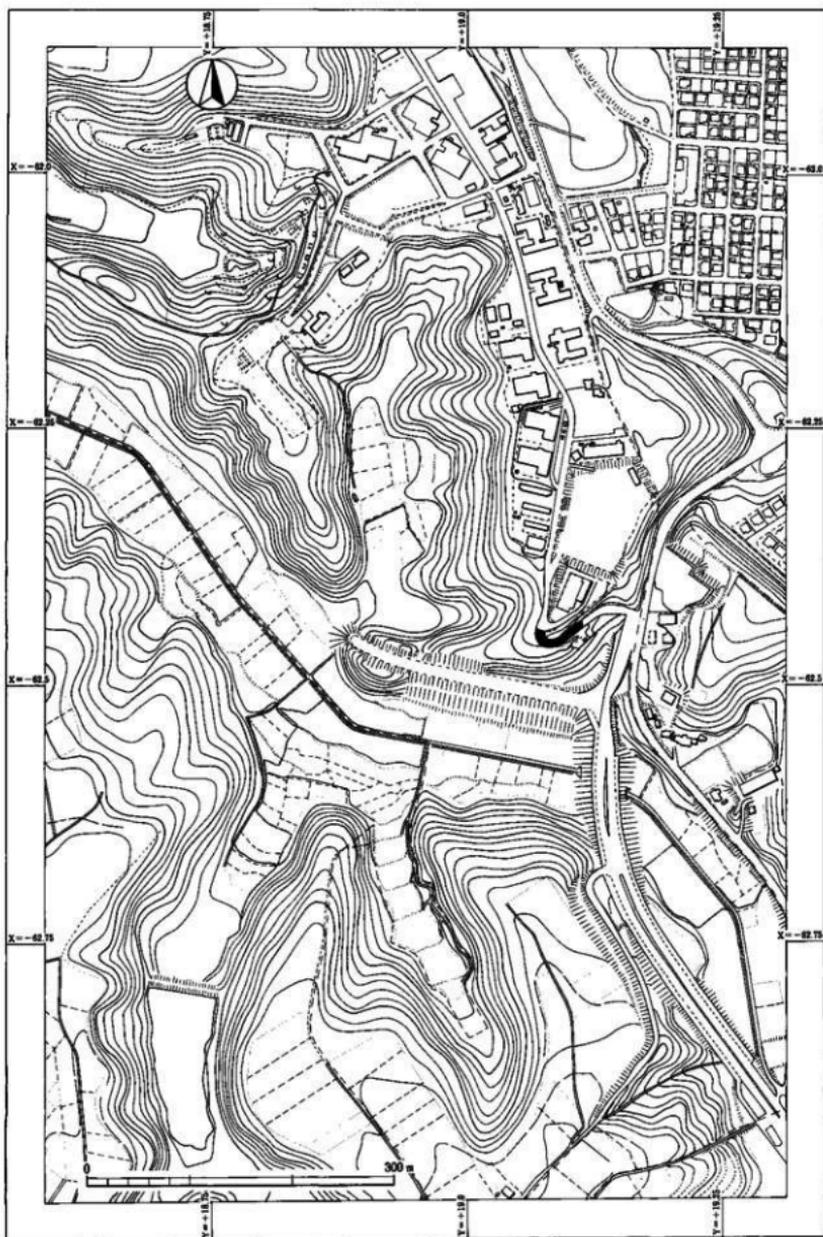
豆作台遺跡は、千葉県袖ヶ浦市代宿二枚橋6-10ほかに所在する。西は東京湾に面し、北の養老川と南の小櫃川に挟まれた袖ヶ浦台地のほぼ中央に位置する。袖ヶ浦台地では北側から浜宿川、久保田川、蔵波川、境川の4本の小河川が東京湾に注いでいる。豆作台遺跡は久保田川に面した標高50m程の台地南端に位置している。付近は浜宿川と久保田川に挟まれた細尾根状の台地が北西から南東方向に伸び、安ヶ谷遺跡、八重門台B遺跡、上大城遺跡、清水川台遺跡など各時代の遺跡が広く点在している。また、久保田川の対岸の台地上にも美生遺跡群、堂庭山B遺跡、一ノ山A遺跡など多くの遺跡が広く点在している。

時代順に周辺遺跡を概観すると、旧石器時代では細石刃核を含むⅡ層下部からⅢ層上部のブロック等が発見された清水川台遺跡¹⁾がある。また、堂庭山B遺跡²⁾からはⅤ・Ⅳ層下層を中心としたナイフ形石器・スクレイパーを含むブロックが、美生遺跡群³⁾からもローム層上層で黒曜石を主とする遺物が発見されている。縄文時代は早期の遺物と陥穴や炉穴の発見例が特に多い。清水川台遺跡では早期前葉から前期の遺物が出土している。堂庭山B遺跡では28基の炉穴と46基の土坑、撚糸文・条痕文土器を中心とした早期の遺物が発見されている。このほか、小櫃川流域に面した関畑遺跡⁴⁾では後期の堅穴住居跡も発見されている。

弥生時代・古墳時代は、上大城遺跡⁵⁾で弥生時代後期から古墳時代前期の堅穴住居跡67軒、方形周溝墓6基などが発見されている。美生遺跡群でも弥生時代後期から古墳時代前期の堅穴住居跡が400軒前後、古墳時代後期の堅穴住居跡が20軒以上確認された⁶⁾。堂庭山B遺跡では古墳時代後期の堅穴住居跡18軒などが発見されている。続く奈良・平安時代は、清水川台遺跡で掘立柱建物跡1棟と堅穴住居跡10軒が、上大城遺跡で掘立柱建物跡6棟と堅穴住居跡14軒が、堂庭山B遺跡でも掘立柱建物跡3棟と方形周溝遺構4基などが発見されている。中世では浜宿川河口の東京湾に面する台地上に久保田城⁷⁾が所在している。



第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡 (1/25,000)



第2圖 遺跡周辺地形圖 (1/5,000)

市原市の椎津城の支城として1537年に築かれたとされている。発掘調査で堅穴状遺構や井戸跡、ピット群などが発見されている。また、山谷遺跡⁹⁾では鎌倉街道跡とその両側に位置する市や墳墓群などが発見されている。

- 注1 佐久間豊ほか 1983 『清水川台遺跡発掘調査報告書』 財団法人君津都市文化財センター
2 加藤正信ほか 1996 『袖ヶ浦市京庭山B遺跡』 財団法人千葉県文化財センター
3 財団法人君津都市文化財センター 1991 『君津都市文化財センター年報No.8』
4 財団法人千葉県文化財センター 1992 『千葉県文化財センター年報No.17』
財団法人千葉県文化財センター 1993 『千葉県文化財センター年報No.18』
5 笹生 衛ほか 1994 『上大城遺跡発掘調査報告書』 財団法人君津都市文化財センター
6 實川 理ほか 1992 『美生遺跡群Ⅰ』 財団法人君津都市文化財センター
7 財団法人君津都市文化財センター 1991 『君津都市文化財センター年報No.8』
8 柴田龍司 1993 「鎌倉街道と市一袖ヶ浦市山谷遺跡の成果から」『研究連絡誌 第41号』
財団法人千葉県文化財センター

2 基本層序（第4図）

今回の調査地は台地縁辺部の傾斜地であることや、既存の道路等により立川ローム層硬質部近くまで削平を受けており、遺存状態のよい層序が観察できたのはごく一部の調査地であった。

- 第Ⅰ層 表土攪乱層。 第Ⅲ層 黄褐色土層 立川ローム層軟質部、ソフト化が著しい。
第Ⅳ層 黄褐色土層 立川ローム層硬質部。 第Ⅴ層 暗黄褐色土層 第1黒色帯に相当する。
第Ⅵ層 暗黄褐色土層 始良丹沢火山灰（AT）を包含する。赤色スコリアを少量包含する。
第Ⅶ層 暗黄褐色土層 第2黒色帯上部層である。赤色スコリアを少量包含する。
第Ⅷ層 暗黄褐色土層 第2黒色帯下部層である。やや明るい色調の層（Xb層）により分層される。
第Ⅸ層 灰褐色土層 立川ローム層最下層である。

Ⅲ 検出した遺構・遺物

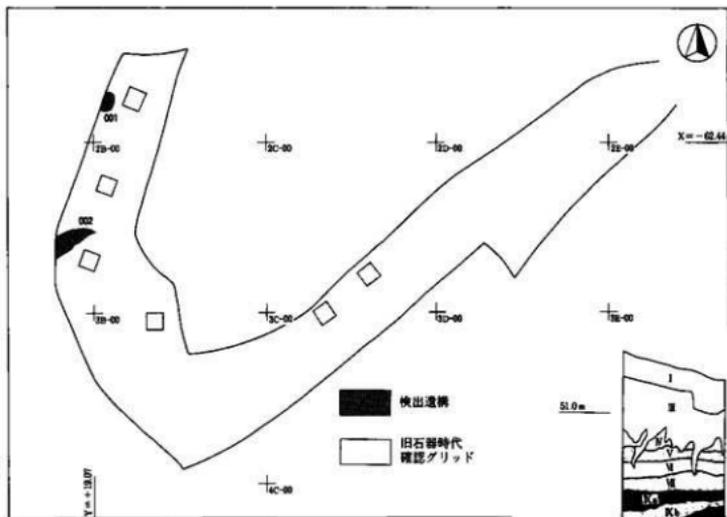
1 遺構

001（第5図 図版1）

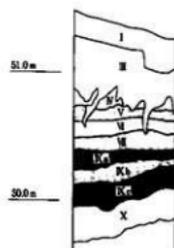
調査区の北西部に当たる1B-71に検出された土坑である。黄褐色土を掘り込んで構築された土坑であるが、一部が調査区内にかかったのみで、多くが調査区外に続くものと考えられる。検出面での標高は50.7m～50.9mである。重複する遺構は存在しない。

検出範囲から遺構の形態を推測すると、楕円形か不整な円形であると考えられる。現状では2.90mの規模があることは明らかであり、さらに拡がりをもつことが窺われる。土層断面の観察から、中央部に向かって掃鉢状に落ち込んでいくと思われ、底面からの立ち上がりは明瞭ではない。最も落ち込む部分で、検出面から55cmの深さを測る。

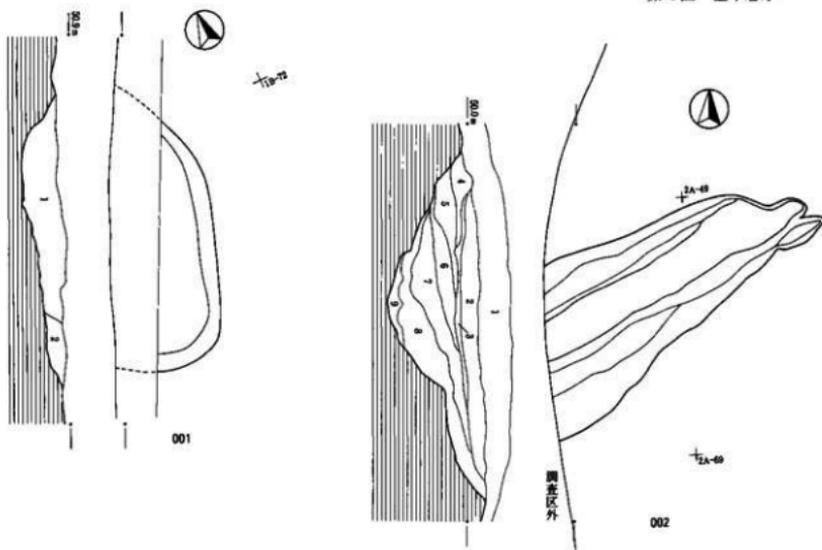
覆土は2層に分けられる。1層は黄褐色土がまだらに混じる黒色土で炭を含んでいる。2層は黄褐色土



第3図 遺構及び旧石器時代確認グリッド配置図 (1/600)



第4図 基本層序



第5図 001・002遺構 (001: 1/60, 002: 1/80)

をまだらに含む黒褐色土である。

遺物の出土は認められない。

002 (第5図 図版1)

調査区の西側に当たる2A-48・49に位置する溝状の遺構である。表土層を除去するとソフトローム層が現れ、その面から遺構が掘り込まれている。ただ、発掘可能範囲にかかる大部分が、すでに敷かれていた舗装道路を剥がして検出したので、遺構の上部はすでに削平された状態となっていた。検出したのは一部であり、谷側に続いているのは明らかである。遺構の方向は、谷寄りである南西側から北東に伸びている。南西部の幅は2.50mを測り、北東に向かって幅を狭めていき、同様に深さもしだいに減じて北東端部に至る。南西部における検出面からの深さは65cmで、断面形はU字形を示す。

土層断面図の1層は表土層である。2層は黄褐色土である。3層は2層の下部で硬化した層である。4層は暗褐色土である。5層は黒褐色土粒を含む黄褐色土である。6層は黒褐色土粒やロームブロックを含む黄褐色土である。7層は暗褐色土粒やロームブロックを含む黄褐色土である。8層は暗褐色土と褐色土が混ざる層である。9層は褐色土を含む暗褐色土である。

硬質となっている3層は、上面が踏み固められたことにより形成されたと考えられ、ある時期には道として利用されていたと考えられる。硬化面の存在は、本遺構の機能が、谷から上るための道であった可能性を窺わせるものである。

遺物の出土は認められない。

2 遺物 (第6図 図版2)

すでに述べたように、遺構に伴う状態で遺物の出土は認められなかった。しかし、調査区内からは散発的な遺物の出土があった。

第6図1～6は縄文土器で、すべて前期後葉に比定されるものである。1・2は竹管によって文様が描かれるものである。1は半截竹管による縦方向の平行線が施され、2には平行線と波状の文様が認められる。3～5は胴部破片で、3・4には貝殻腹縁で文様が描かれている。6は底面と平行する浮線文が施された底部で、下端は外側に張り出し、施文が下位にまで及んでいる。

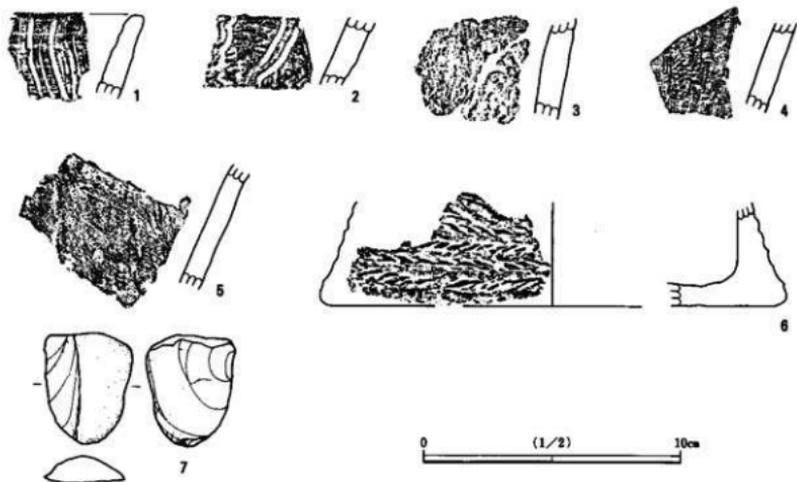
7は磨石の一部と考えられる。

写真図版2の遺物8は鉄滓で、細かな気泡を認めることができる。凹凸した面と、破面が認められ、碗形滓の下面と考えられる。

IV まとめ

豆作台遺跡は現在財団法人君津都市文化財センターにより遺跡の中心部周辺の大規模な発掘調査が実施されており、旧石器時代から縄文時代早期、前期の遺構・遺物が多数検出されている。

今回の発掘調査地は本遺跡の位置する台地の東南端の傾斜地部の小範囲の調査であったが、縄文時代前期の遺物が検出されたことでこの台地上に当該期の集落が展開していたことが認められる。また、縄文時代前期の資料は袖ヶ浦市をはじめとする君津管内においても数例にも及ばないことから、わずかな数量ではあるが、貴重な資料と言えよう。



第6圖 出土遺物

1. 発掘調査前風景



2. 001 遺構

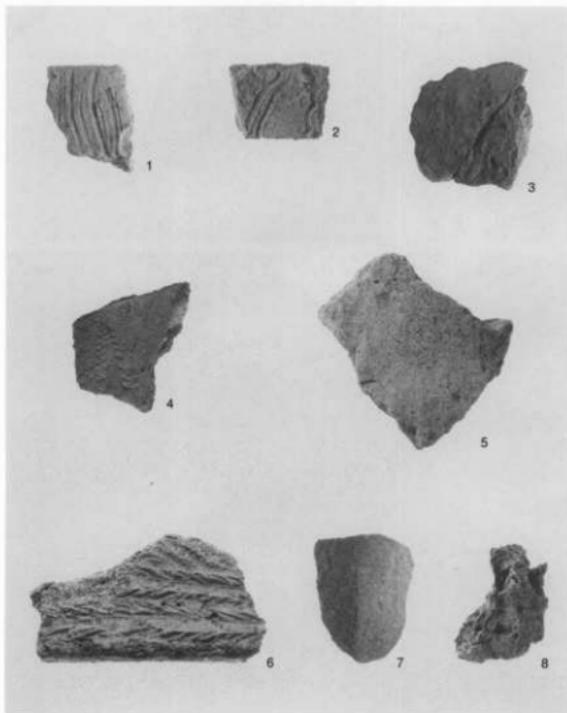


3. 002 遺構





1. 発掘調査完了風景



2. 出土遺物

報告書抄録

ふりがな	そでがうらしまんさくだいいせき							
書名	袖ヶ浦市豆作台遺跡							
副書名	主要地方道千葉鴨川線埋蔵文化財調査報告書3							
巻次								
シリーズ名	千葉県文化財センター調査報告							
シリーズ番号	第340集							
編著者名	野口行雄							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809-2番地 TEL 043-422-8811							
発行年月日	西暦1998年3月31日							
ふりがな	ふりがな	コ ー ド		北 緯	東 経	調査期間	調査面積	調査原因
所収遺跡	所在地	市町村	道庁番号	〇 〇 〇	〇 〇 〇		m ²	
豆作台	千葉県袖ヶ浦市代宿 二枚橋6-10ほか	12229	020	35° 26' 23"	140° 02' 59"	19960601~ 19960628	1,100	主要地方道 千葉鴨川線 県単道路改良(幹線道 路網整備) 工事に伴う 埋蔵文化財 調査
所収遺跡名	種 別	主な時代	主 な 遺 構		主 な 遺 物		特 記 事 項	
豆作台		縄文時代			縄文土器(早期、前期)			
		中 世	土坑	1基				
			道路状遺構	1条				

千葉県文化財センター調査報告第340集

袖ヶ浦市豆作台遺跡

主要地方道千葉鴨川線埋蔵文化財調査報告書3

平成10年3月31日発行

編 集 財団法人 千葉県文化財センター

発 行 千 葉 県 土 木 部
千葉県中央区市場町1-1財団法人 千葉県文化財センター
四街道市鹿渡809-2印 刷 大 和 美 術 印 刷 株 式 会 社
千葉県木更津市潮浜2-1-10